

# ピカソを超えていく

諸輪任住

青木 幸一 さん (77歳)

世界有数の芸術大国・フランス

で行われた美術公募展「サロン・ド  
トーヌ2022」。フランスの展覧  
会屈指の難関としても知られ、現  
在まで100年にわたって開催さ  
れているこの展覧会では、国際画  
壇に新しい風を吹き込むような独  
創性が求められます。

今回は「第19回サロン・ドトーヌ  
2022」に入選された青木 幸一  
さん(以下「青木」表記)にお話を  
伺いました。



—— 絵画に興味をもったきっかけ  
は何ですか。

**青木** 中学生の時に、美術界隈で  
有名な高校の美術科を目指す同  
級生から七宝焼きの話聞いて  
興味を持ち、「自分にも何かでき  
ないかな？」と空想しました。  
それをきっかけに色で描く世界  
に深く惹かれ、気づけば美術大

学に進学していました。

—— 大学では芸術家になる道を選  
ばれたのですか。

**青木** 大学で商業デザインを学び、  
卒業後は広告代理店で勤務しま  
した。当時は今までにない広告  
が開化し始め、アメリカでは民  
間のテレビ放送など、まだ日本  
には普通でない斬新な世界があ  
りました。新しいものが大好き  
な私は、マスメディアの仕事に  
興味を持ったのです。当時の新  
しいことに夢中になる本能が今  
の自分につながっています。

—— では、本格的に絵画制作に取  
り組み始めたのはいつからですか。

**青木** 定年退職し、時間に余裕が  
できてからです。さまざまな経  
験をして、教えてもらったこと  
に感謝しています。培った知識、  
技術などが社会に役立てばと、  
パソコンの中のキャンバスと  
日々向かい合っています。

—— 今後の目標を教えてください。

**青木** 「ピカソを超えること」で  
す。世界に認められる作品を描  
くには、ピカソのように「新し  
い価値や考え方」、哲学が必要で

す。例えば、かの有名な絵画「ゲ  
ルニカ」は「戦争を視覚化したい」  
という他者とは異なる思いがあ  
りました。今までのもの、大衆  
が好むものではなく、新しい価  
値を表現している所からうかが  
えます。私は、ピカソのように、  
新しい価値を表現していきたい。  
今はその一歩として、アメリカ  
で行われる世界最大級の美術展  
「アート・バーゼル・マイアミビー  
チ」に出展したいと思っています。

—— 最後に、青木さんにとって  
「アート」とは何ですか。

**青木** 「人間の価値は何に、どこ  
に？」を考え表現したものです。  
アート自体の意義は、吉本隆明  
のとなえる「国家とは共同幻想  
であり、芸術とは自己幻想であ  
る。」いわば、それがアートの真  
髓かな。

—— 技術の高さももちろんのこと、  
今まで世になかった新しい発想を  
表現することが求められる厳しい  
世界。しかし、ピカソを超え、さ  
らには時代を超えて後世に語り継  
がれる偉人が東郷町から誕生する  
かもしれません。青木さんの更な  
るご活躍を祈っています！

## 夢を叶えるための“私のメソッド”

### 朝起きてすぐに作品制作をする

眠すぎて、半分夢の中にいたとしても、  
すぐに制作に没入する。朝ご飯を作って、  
洗濯して…といった日常生活のルー  
ティーンよりも、もっと大切なのが「人  
間の想像力を引き出す」ことです。

こうすることで、頭の中にある「常識」  
にとらわれることなく、「人間の真相、  
価値」を表現できたらベストですね。

